

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスぶらんこ新田		
○保護者評価実施期間	2025 年 2 月 12 日 ～ 2025 年 3 月 12 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025 年 2 月 12 日 ～ 2025 年 3 月 12 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 3 月 12 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	友人とのコミュニケーション(1対1や集団)を通して他者の気持ちを想像する練習を行っています。	大人は必要な部分だけ手助けをして、子ども同士のコミュニケーションを通して気づきを学んでいける環境を整えています。	毎日の打合せで、子どもの現在地を確認し職員同士の意見のすり合わせや療育の方向性をさらに統一していけるよう取り組みます。
2	「こどものやりたい」に寄り添い、子どもたちが楽しく通える環境を作っています。(やりたいことをモチベーションに、苦手なことにもポジティブに取り組む環境を作っています)	子どもたちの希望を聞いたり(公園、電車、バス、おやつ作り、買い物、科学館など)、子どもの知らない遊びをスタッフが考える(伝承遊び、室内のイベント、子どもが知らない公園)など、楽しく参加できる環境を作ります。(全てが療育ではなく、楽しいことを通して自然と課題に取り組める環境を作っています)	普段から色々な情報収集を行い(テレビ、ネット、地域の広報など)子どもたちが楽しめる場所を探しておく、また、職員会議で色々なアイデアを出し合い様々な経験につなげる取り組みを進めます。(プログラムに合わせて取り組みやすい課題なども考えていきます)
3	こども達のよい面を認めていくことで、居場所作りや安心につながられています。	よくない面に注目するのではなく、こどもたちの良い面に注目するようにすることで、子どもたちも良い部分を発揮しようと頑張ってくれることが多いです。	思春期や反抗期に入ること子どもたちが悪い面を前面に出してくる時期があります。その時でも否定をするのではなく、思春期や反抗期の自立心を肯定し、今まで培ってきた背後にある良い部分を引き出せるよう取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	普段の活動中、個別の活動(1対1)が少ないと思われます。	友人が来ている中でコミュニケーションの経験を積んでほしいため、スタッフが主体的に関わることを控えることが多いです。 その他、個別で対応するにはスタッフ数が少ないことが考えられます(10人の子どものに10人のスタッフを準備することが困難)。	友人同士でコミュニケーションをとる事は強みではありますが、初期や年齢差が大きいとき、嗜好が離れている時などは個別対応が望ましい事も多いです。小集団や大集団、個別などうまく組み合わせでスタッフを配置し、個別→小集団→大集団とコミュニケーションの幅を広げられるよう工夫します。
2	地域とのつながりがあまりありません。	土・日・祝お休みの為、地域の催すお祭りやイベントにはなかなか参加できません。まだ立ち上げて3年目の施設なので繋がりもこれから増やしていく段階だと思っています。	最近、地域の体育館を借りる機会などを増やしています。今後も区の研修や地域のイベントに少しずつ参加していき、地域とのつながりを増やしていきたいと考えています。
3	事業所が2階にあるため、肢体不自由の方が利用しにくい。	事業所が2階にあるため	現状、エレベーター等の設置は難しいため、現施設での根本的な解決方法は思いつきませんでした。(1階の事業所に引っ越しなど)手すりは改修して使いやすくなりました。 マイナス面ではありますが、階段の上り下りで子どもたちの運動能力の向上というプラスに繋がっていきたくと思っています。